

## 【多摩丘陵・私の出会った生き物たち16】

### <アオバズクの旅>

桑原紀子

青葉の美しいこの季節に、東南アジアから渡って来る鳥がいます。アオバズクです。

アオバズクとは、青葉の頃にくるフクロウという意味です。

能ヶ谷でも、毎年今頃鳴き始めるので、このところ私は、夜になると耳を澄ませています。

今年は、5月19日の夜8時過ぎ、初めての鳴き声が聞こえてきました。

”ホッホッ ホッホッ ” 少し遠くてかすかですが、ふた声ずつの特徴のある鳴き声です。

今年もやって来たんだな、と心がほっと暖かくなってきました。

アオバズクはフクロウの仲間ですが、体長30cm 足らずの小型の可愛いフクロウです。

茶色の丸い頭に金色の目、胸は茶と白のだんだら模様です。

能ヶ谷に越してきて最初の5月の夜、声を聞いて感激してから、もう30年近くの付き合いです。

昨年を除いては、ほとんど毎晩鳴き続けていました。

それが一羽ではなく、呼び交わしているようなのです。

日が暮れて薄暮の頃、谷戸の空低く、音もなく2羽が飛び交っている姿にもよく出会いました。餌の虫を獲っているのです。

そして夏も終わる頃の夕方、電線に子どものアオバズクが2、3羽並んで止まっていたりしました。

アオバズクは日本で子育てをして、秋が来ると、家族でまた東南アジアに帰っていくのです。

大木の樹洞に巣を作るので、いかにも巣を作りそうなケヤキの大木などを探してみるのが、なかなか見つかりません。でも熱心に調べてみると、面白い発見もありました。

地面にオオミズアオという大型の蛾の羽だけがおびたしい数落ちていたり、カブトムシの頭部だけがいくつも転がっていたり、その上を見上げると大木の枝が張り出し、アオバズクの食事の場所ではないかと推理されるのです。

夜も更けて、すぐ近くで”ホッホッ ホッホッ ” と鳴き始めるので、出てみると、家のすぐ前の電線にシルエットが浮かび上がっています。声を聞きながら、眠りについたこともありました。

しばらく声がしないな、と思っている内に秋が来て、ある晩久しぶりに鳴き交わす声がしました。声を尋ねて行くと、近くの電線や電柱に4羽のシルエットが浮かび上がっています。鳴き交わしながら家族が集合して、故郷に旅立った夜でした。

アオバズクは本当にすぐ側で暮らしていました。

昨年は6月4日の夜一回鳴いたきりです。一度も姿を見ることはありませんでした。

今年は5月19日と27日の深夜かすかに聞こえてきました。

今年も無事相手と出会い、巣を作り、子育てを終えて”ホッホッ ホッホッ ” と呼び交わしながら遠い故郷へ帰って行くことができるでしょうか？

青葉の闇が静まり返っていると、私は遠くに耳を澄ませてしまうのです。